

ほげい船 25年7月

病院を発展させるために

富士山が世界遺産に決定されたニュースがながれ、地元をはじめ、日本中が沸き立っています。海外から日本に帰国する際、富士山をみて日本に帰ってきたと実感する人が多いといわれていますし、私自身も米国留学から帰ってきたとき富士山を見て日本を強く感じたのを覚えています。大学時代クラブ活動で南アルプスの北岳に登ったことがあります、休憩でザックをおろした時、目の前に現れた雄大な富士山が今でも目に焼き付いています。歌にもあるように富士は日本一の山だとその時、パーティのみんなと話したことでした。世界遺産の中にもいろいろ種類があるようですが、第13回の盛岡で開催された日本医療マネジメント学会の特別講演で毛越寺執事長の藤里明久氏が世界遺産に登録されている平泉の文化遺産についての講演を聞く機会がありました。その中で登録された世界遺産を有形、無形を問わず後世に伝えていくことが重要であることを語っておられました。富士山にしても、世界遺産登録に伴い、登山者の増加、観光地開発による環境破壊が危惧されています。世界遺産に限らず、文化や遺跡を維持し、かつ発展させ継承していくことは、時代時代の人に課せられた課題と考えます。さて、私たちの高知病院も内容は異なりますが、次の世代に引き継いでいくという点では同じように思います。国立病院時代に建設された立派な建物も13年の歳月で当然ほころびも出てきていますが、病院の医療の質は確実に進歩してきています。この進歩させた病院の医療の質を継続的に発展させていくためには、旧態依然としたやり方では乗り越えることはできません。医療の現場において、診断技術や治療方法は、猛烈な速さで進歩しています。高度の機能を持つ医療機器の導入は避けて通れませんが、そのためには機器を購入できる経済的基盤の確立は重要で、職員の皆様も十分理解してくれていると思います。しかし、機器整備も大切ですが、それ以上に重要なことは病院職員が時間をかけて獲得した知識や技術を引き継ぎ、さらに発展させる能力を持った優秀な人材を確保することです。そのためには、いい人材が高知病院に集まってくるような病院づくりをすることが、私たちに与えられた重要な課題です。すなわち、医療水準を上げ、教育を充実させ、病院を活性化することに加えて、働き甲斐のある職場にすることが重要です。さらに、チーム医療の重要性が指摘されている現在、職種の違いを越え、病院職員が心をつなげて、目標に向かっていく病院であることも必要と思います。この意味から毎年実施している高知病院フェスタはまさに、病院職員が協力して実施する有意義なイベントと言えます。今年も6月1日に開催しましたが、200名を超える職員がボランティアとして参加してくれ、たくさんの来場者も病院に親近感をもっていただけたと思います。この開催にあたっては時間外に集まって、来場者が興味をもつような企画を考えてくれました関係の皆様に本当に心より感謝致します。これからも、病院は様々な問題に直面すると思いますが、協力し知恵を出し合って解決し、継続して病院を発展させていきましょう。